

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あるてあ・あーち (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	8年 3月 15日		8年 3月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	8年 3月 15日		8年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月の職員会で、支援スキルを向上するために、専門知識の研修、事例検討や授業研究を行ったりしている。	将来の業務において必要となる知識やスキルを習得している。支援をしていく中で多様な視点でニーズに応じた適切な支援ができるように、意見交換している。一人で抱え込まずチームで支援できるように、話し合いをしながらチーム体制が作れるように工夫している。活動の質の改善や、新しい視点からよりよい活動の開発や共有を目指している。	職員のよりよい支援を目指すため、職員の心のケアにも取り組む。アンガーマネジメントなどの研修などの検討をしている。
2	毎月5領域に沿って活動内容を計画し、それを基に日案を作成し、授業内容に沿って活動している。	5領域に沿って、その日に利用する利用児に一人一人に目標を立てて活動している。短い時間内に活動が円滑に回るように、活動内容を想定し、それに沿って活動している。	その日のうちに振り返りを行い、内容の充実化や支援の質の向上を目的にPDCAサイクルの実施に努めていく。日々変化が激しい環境から、より迅速に対応するために、PDCAに加え、OODAループを取り入れながら、柔軟な対応をしていく。
3	市内の関係機関（行政、保育園、幼稚園）と管理者同士がつながりを作ることができている。	利用児の支援会議を中心に、必要に応じて、情報交換をしながら、よりよい支援につなげている。	見学や施設利用、または研修等の交流も検討していく。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	身体を大きく動かして活動をする場所がない。	広い外庭や運動に適した部屋がなく、近くに公園や公共の施設などの社会資源はあるが、利用児の状況によっては移動するのに懸念がある。	運動量が確保できるような活動の組み立てをしていく。また、事前に計画し市内の市民センターや公民館などの公共施設を利用できるようにしていく。広い体育館などで体を十分動かせるような工夫をしていく。移動の際にカートを使用することも検討する。
2	緊急時対応マニュアルなどのマニュアルや避難訓練の実施報告などが保護者に周知されていない。	職員間には共有できていたが、保護者にまでは周知できていなかった。	緊急時対応マニュアルについての説明、周知をしていく。また、避難訓練の報告書もお便りに追加して記載していく。災害などの緊急時の対応訓練も実施の検討をしていく。
3	保育園やこども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がない	地域の園との関係作りや連携はできてきているが、交流の場としての企画や進め方が分からない	支援センターなどと連携して進めていく